

感動一点の場

『裏みち』
1992 年 小川原 脩 画



1982 年に訪れたチベットでの出来事でした。小川原脩はラサの市街地で野良犬の群れに出くわしたのです。犬との距離を保ちながらスケッチブックを取り出して野良犬たちを描き始めると、しばらく吠えていた犬も緊張が解け、やがて吠えなくなりました。小川原はこの犬たちを「作品になる」と思ったのです。

建物の壁が続く裏みちに、行く手をさえぎる犬の群れがいます。犬の背景に描かれた市街地の屋根や壁は単純な曲線で描かれ、建物は膨らんだ形をしています。画面全体に明るい黄土色や灰色を使うことで、入り組んだ裏みちが穏やかな空気に包まれた空間のような印象を与えます。地面にできたくぼみに体を横たえる犬、うつむいて座る犬、丸くなって寝ている犬。どの犬もおとなしくひとつのかたまりとなっていてやさしい群れをつくっています。

小川原は長年にわたり「群れ」とのわずらわしい関係を断ちたいと思いながら「個」の側から「群れ」をながめていましたが、80 歳を過ぎて「群れ」に対する感情にも変化があったのでしょうか。路地の奥から少し離れて群れを見ている一匹の犬は小川原自身の姿かもしれません。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

倶知安の赤水と水道の普及

かつて湖の底にあったとされる倶知安の町。一般的に湖の底は水の動きが少ないため、有機物の分解過程で無酸素状態になることがあります。その状態が続くと堆積物から鉄が溶け出て、湖底に蓄積されていきます。倶知安の地下水も例外ではなく、酸化鉄を多く含んだ、赤く金気の強いものでした。

1911（明治 44）年に行われた検査では、286 カ所ある井戸のうち 148 カ所が飲用不適で、飲用できるものは 63 カ所しかなかったようです。また、大正 5 年に発行された『倶知安史』（著・山田実次）には「倶知安は市街（4 部落）のどこも飲料水に苦しんでいる。上層は草や木のくさった土、中層は粘土、2 ～ 3 ㍍の下層は酸化鉄を含む盤層だから、井戸水は鉄気をふくみ、飲料水にするには沸騰したり、こしたりしなければならぬ。」と記されており、当時から人々が赤水に悩まされていたことがうかがえます。

何度も上水道の必要性が叫ばれ、計画が持ち上がりましたが、財政難や戦時・戦後の混乱などもあって、なかなか実現を見ず、ようやく倶知安町に上水道が設置されたのは 1954（昭和 29）年のことでした。良質な水が飲める私たちの当たり前は、先人たちの苦労の上に成り立っているのですね。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲開通した水道（昭和 30 年代）

ふるさと探訪

481 回

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「アジアの大地」

中国桂林・チベット・インドの情景を描いた、ぬくもりあふれる絵画世界をご覧ください。

会期：開催中～7 月 2 日(日)

■第 2 展示室

小川原脩・穂井田日出麿 二人展「生きる」

穂井田日出麿（古平町在住）は北漁場で働く「はずし娘」を長年題材とし、厳しい自然のなか生きる姿を描き続けています。

小川原脩の作品とともに、「生きる」ことへの想いを絵画へと込めた画家二人の作品をご覧ください。

会期：開催中～7 月 2 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち」

日時：5 月 6 日(土) 17 時～18 時 会場：当館ロビー（無料）

講師：柴勤（前館長） 定員：5 名程度※要予約

おとなの手しごと (19)「ペンで描こう！オリジナルイラスト」

いろいろなペンを使って、カラフルなイラストを描いてみませんか。初めての方でも楽しく作品が作れます。

日時：5 月 13 日(土) 14 時～16 時 会場：当館ロビー（無料）

お相手：沼田絵美（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10 名※中学生以上、親子可、要予約

京都逍遥 (11)「鄙をたのしむ 西山・山科」(後半)

長岡天満宮から石清水八幡宮、小野小町の随心院までを巡ります。

日時：5 月 20 日(土) 14 時～14 時 45 分

会場：映像ルーム（無料） お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

倶知安風土館のお知らせ

■ふるさと探訪「鳥を見ながら歩こう！」

双眼鏡の使い方から、観察のポイント、メモの取り方、図鑑の調べ方まで、鳥観察初心者向けの春の散策です。（少雨決行）

日時：5 月 7 日(日) 8 時 30 分～13 時 集合：倶知安風土館

定員：8 人※要予約（5/2 まで） 参加費：250 円（保険料）

講師：矢吹全さん(ニセコネイチャーガイド・フォレストレック主宰)

申込：電話にて受付（倶知安風土館 ☎ 22 - 6631）

■倶知安いきもの調査隊「セイヨウオオマルハナバチ採集調査会」

外来種・セイヨウオオマルハナバチを採集します。（少雨決行）

日時：5 月 13 日(土) 10 時～12 時 集合：百年の森

定員：なし（予約不要） 参加費：無料

講師：小田桐亮（風土館職員）、宮崎守（百年の森管理人）

■こいのぼり、泳いでいます

風土館前でこいのぼりを展示しています。また、こいのぼりの寄付も受付中です。自宅にあるこいのぼり(ナイロン製)を、ぜひ風土館にお持ちください。※損傷、破損などが激しい物、布製の物はご遠慮ください

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）

高校生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時
入館は 16 時 30 分まで
※（ ）内は 10 名以上の団体料金
5 月の休館日 毎週火曜日、
風土館は 12 日(金)（展示替え）
こどもの日（5 日(金)）は小中高生美術館観覧無料

本当の春が来た

今年度も引き続き美術館・風土館長を務めることとなりました。力不足は相も変わらずですが、どうかよろしくお願いします。

さて、これを書いている 4 月の上旬、ニュースを見れば桜の話題が目を引きます。今年は平年より 2 週間は開花が早いとか、昨日は秋田に桜前線が到達したとか、しないとか・・・

今まで私が行ったことのある桜の名所で、もっとも華やかな印象が残っているのが 10 年前、青森県の「弘前さくらまつり」です。この時点での満開予想は 4 月 17 日。大型連休は道内として、4 月の週末は弾丸旅行で久しぶりに青森に行こうかしらん、と画策中。青森県立美術館にある奈良美智作の「あもり犬」にも再会したいし、ソウルフードの煮干しラーメンもたらふくいただきたいのです。

4 年ぶりの春が来ています。当美術館の前庭の桜も、近々見頃を迎えます。さあ、皆さんはどこにお出かけしますか？

館長 福原 秀和